

町内の  
企業紹介

# ヘイコーパック株式会社

皆さんが日々使っているものが、どんな所でどのように作られているのか・・・気になりませんか？  
今月号から、町内にある身近な企業や商店を紹介していきます。



▲インタビューに答える鈴木健夫社長

ヘイコーパック株式会社は、昭和38年に創業し、昭和55年に現社名に変更して現在の祖母井地内に移りました。業務内容は主に紙ぶくろや包装紙の製造で、卸売り大手商社の受注を一手に引き受けています。  
社員は144人、そのうち33人が障害者です。掃除用具を色分けして片付けやすくしたり、『敬愛工房』という施設で研修を行ったりと、鈴木健夫社長は障害者の雇用を積極的に進め、彼らが働きやすい職場づくりを進め

▶▼敬愛工房での作業の様子。  
10枚ずつの小分け商品の仕分け作業をしています。



ています。

会社の信条は「挨拶・後始末・掃除を徹底する」「丁寧で穏やかな生き方の中に、真の生産性の向上を目指す」です。

「印刷など大型機械を使うため、以前はインクや接着剤、のり、機械油で工場内が汚いのは当たり前、という状況でした。それをなんとかして改善しようと徹底した清掃に取り組んで15年。きれいな環境を整える

ことで、社員みんなが穏やかに仕事を行えるようになりました」と鈴木社長。特に最近では『5S』（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を徹底し、ほかの会社と合同で勉強会を行い、社員同士が協力して、お互いの会社の社風をよくしていくと活動しているとのこと。



▲清掃や整理整頓などの記録(敬愛塾)

この活動の一環として、ヘイコーパックの社員の方には、町の総

合運動公園のトイレや神社の境内の清掃を行っていただきました。皆さんありがとうございました。

鈴木社長から町民の皆さんへ

現在、隣の市貝町に第2工場を建設中で、秋に新たな体制でスタートする予定です。ますます地域に根ざした企業として活動を続けてまいりたいと思っています。また、私どもの取り組みをより近いところでご紹介させていただく思いで、隣地に「パッケージプラザ芳賀店」を開設しております。こちらを通じても新たな時代のニーズに合った包装資材をご提供できるようにがんばってまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

☆ヘイコーパックの紹介は、芳賀チャンネルでも放送されました。



## ヘイコーパック株式会社

住 所 芳賀町祖母井1702  
従業員数 144人  
電話番号 028(677)0214  
※上から2枚目の写真は販売店舗のパッケージプラザ芳賀店

## 紙ぶくろがでるまで

紙ぶくろを作るには何が必要でしょうか？原料の紙・印刷のためのインク・貼りつけるのりなどが思いつきます。でも、工場では早く大量に作らなくてはならないので、大型機械とそれを動かす人も必要になります。  
ここでは工場の手提げの紙ぶくろができるまでを追いかけてみましょう。



原料となるロール紙です。  
1本が約300~500kgあります。  
1日に20~25トンを使って紙ぶくろや包装紙を生産します。倉庫には約3週間分のロール紙が保管されています。

大震災のときには積んであるロール紙が崩れてしまったんだって。



ロールのまま印刷します。  
印刷は1色からフルカラーまで対応できます。  
この先の工程は、1つの大きな機械で行われます。



これは手提げの部分を貼り付けているところ。  
手提げ部分も自動で作られ、機械で1つずつ切って貼り付けていきます。



そのまま機械の中で紙が折られて、出口からは手提げ付きの紙ぶくろとなって出てきます。  
最後には人の目で見、不良品がないかなど、しっかりと確認します。



◀機械の全体です。ふくろの形・大きさ・手提げ付きなどで機械を使い分けます。



あとは箱に詰めて出荷されたり、パッケージプラザで販売されたりします。

ヘイコーパックで出た廃紙で再生紙を作り、その紙で作った100%再生紙の紙ぶくろです。

